

2024年度事業報告

(2024年4月1日から2025年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 学術大会について

第65回日本神経学会学術大会を下記のとおり開催した。現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式による開催とした。

- ・大会長 戸田達史 東京大学大学院医学系研究科神経内科学教授
- 副大会長 横田隆徳 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学教授
- ・会期 2024年5月29日(水)から6月1日(土)までの4日間
- ・場所 東京国際フォーラム

(2) 学術大会運営について

- ① 第69回学術大会大会長を選出した。
青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野教授
- ② 第66回学術大会を大阪府で開催するため、その準備を進めた。
 - ・大会長 望月秀樹 大阪大学大学院医学系研究科神経内科学教授
 - ・副大会長 永井義隆 近畿大学医学部脳神経内科教授

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」64巻4号～65巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」(Volume 12, Issue 3～Volume 13, Issue 2)を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

- ① 慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン診療ガイドライン2024、ギランバレー症候群/フィッシャー症候群診療ガイドライン2024を出版した。
- ② 神経疾患の遺伝子診断ガイドライン、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、認知症疾患診療ガイドライン、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン、てんかん診療ガイドライン、細菌性髄膜炎・単純ヘルペスウイルス脳炎診療ガイドライン、パーキンソン病診療ガイドライン、HTLV-1関連脊髄症(HAM)診療ガイドラインの改訂版作成を進めた。

3 啓発活動

(1) 広報活動

- ① 会員向けのニュースレター第10号を発行した。
- ② 本学会認定施設で行われる脳神経内科を紹介する説明会やセミナー等の企画を、本学会ホームページで紹介する事業を実施した。
- ③ レジナビフェア@東京ビッグサイトに6月に出席、レジナビフェアオンライン西日本 Week

に6月に参加した。

- ④ 「医学生・研修医のための脳神経内科ウェブセミナー」を9月に開催した。
 - ⑤ resident ホームページで「各施設の医局紹介」と「未来の脳神経内科」の記事の更新、学会主催イベント紹介を行った。
 - ⑥ オータムキャンプを北海道地方会支部で行った。
- (2) 脳神経内科標榜の感謝状発行について
「脳神経内科」「神経内科」の標榜をしている開業医に対して感謝状を贈呈した。
- (3) 医学生を対象とした学術大会への参加支援について
医学生を対象とした学術大会への参加支援（交通費補助）については、支援した学生の数は66名であった。
- (4) 脳神経内科フォーラムの活動支援
脳神経内科フォーラムが企画・実施する脳神経内科と神経疾患を広報する活動を支援した。

4 研究奨励

日本神経学会賞を選考した。

学術研究部門

漆葉 章典 信州大学医学部内科学第三教室（脳神経内科，リウマチ・膠原病内科）
「筋炎の臨床・病理学的研究」

診療教育部門

西野 一三 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部
「筋疾患の診療支援と教育」

5 研究推進

- (1) 研究医育成のため、新たに「研究医育成フェローシップ事業」の開始について検討した。
- (2) 産官学連携について
 - ① 研究シーズの企業導出サポート事業
第65回学術大会の一般演題から応募があった演題のうち3演題に対して研究支援を行った。
 - ② 産・官・学連携による若手創薬研究会事業
「産官学イノベーションスクール」を2025年2月26日（水）にWEBにより開催した。
 - ③ 田辺三菱製薬医学教育助成事業
田辺三菱製薬からの教育助成により「筋萎縮性側索硬化症の早期診断の実践シンポジウム」を2024年11月24日（日）に現地開催とWEBシステム利用の一部ハイブリッド方式にて開催した。
- (3) 他団体との連携協力
神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力した。

6 専門医及び教育施設の認定

- (1) 専門医
 - ① 第50回専門医試験を次のとおり実施した。

- ・第1次試験 2024年10月5日(土)(TKP品川カンファレンスセンター)
合格者数 205名
- ・第2次試験 2024年11月10日(日)(日本都市センター会館)
合格者数 207名

② 第30回専門医認定更新を実施した。

2024年度末専門医数は、6,908人である。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2025年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。2024年度末認定施設数は、809施設である。

② 指導医認定

2025年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2025年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。2024年度末指導医数は、3,293人である。

③ 特別連携施設制度について

指導医あるいは専門医が在勤していない小規模施設において、教育施設として連携することによって専門医研修ができる特別連携施設制度は2024年度末で37施設である。

(3) 専門医制度

① 専門医制度の状況及び神経内科専門医の基本領域への取り組みについてのWEB説明会を2025年1月12日に開催した。

② 神経内科専門医の基本領域化については、他学会の関係者と協議など理解を求める活動を行った。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育セミナー

第65回学術大会時に第21回生涯教育セミナー(レクチャー・ハンズオンセミナー)を開催した。参加者数は、のべ1,367人であった。

(2) 専門医育成教育事業

① 第65回学術大会時に、第23回専門医育成教育セミナーをWEBシステム併用で開催した。受講者数は、328名であった。

② 2024年12月15日(日)にクロスウェーブ幕張にて第24回専門医育成教育セミナーを実施。受講者数は、73名であった。

(3) メディカルスタッフ教育事業

第65回学術大会時に、第11回メディカルスタッフ教育セミナーを東京国際フォーラムにおいて開催し、参加者数は85人であった。

(4) 卒前・初期臨床研修教育事業

① 教育実習機器(診察用ハンマー)を、卒前のポリクリ実習や初期研修医が脳神経内科の臨床実習を効果的に行えるようオータムセミナー参加者等に配付した。

② 日本神経学会の会員が1万人に到達したことを記念して、診察用ハンマーの記念モデルを制作した。

③ 卒前教育の改善や見直しに役立てることを目的とし、教育施設を対象に各大学の脳神経内

科卒前教育の現状調査を行った。

- ④ 会員育成賞表彰事業の実施
神経学会への入会者を多く輩出した大学医局、上位5校を表彰した。
- (5) 第8回特別教育研修会（脳卒中・てんかん・頭痛・認知症コース）を、2024年10月6日（土）に千里ライフサイエンスセンターにおいてハイブリッド開催した。参加者数は、1,284名であった。
- (6) 教育コンテンツ配信事業
 - ① e-ラーニングシステムの運用
専門医単位を取得できるe-ラーニングシステムを運用した。
 - ② 画像システムの整備
静止画像を教育用に活用する画像システムの運用をした。
- (7) Excellent Teacher 表彰事業の実施
学会主催の教育セミナーの講師として教育活動に貢献した会員8名を表彰した。
- (8) 会員の研修支援事業の実施
海外研修（留学）10名、国内研修（滞在研修）1名の支援を実施した。
- (9) 学術大会時の教育プログラムについて
第66回学術大会時の教育プログラムを企画した。同大会で実施予定である。

8 診療向上のための活動

- (1) 令和8年度診療報酬改定提案意向調査提出
令和8年度診療報酬改定に向けて提案意向調査を提出した。
 - ・保険未収載技術用…3件
 - ・保険既収載技術用…3件
- (2) 厚生労働大臣等への要望書提出
 - ① 脳磁計および脊磁計の事業撤退に関する要望書
 - ② 筋萎縮性側索硬化症に対するスコポラミン軟膏の未承認薬迅速実用化に関する要望
 - ③ アセノベル徐放錠（アセノイラミン酸）投与に係る14日間処方制限を例外的に適応しないことへの要望書
 - ④ 高用量メチルコバラミン14日処方制限解除に関する要望書
 - ⑤ 高用量メコバラミンの在宅自己注射に関するお願い
 - ⑥ ロザノリキズマブ（遺伝子組み換え製剤）として1週間間隔で6回皮下投与製剤の在宅自己注射指導管理料算定対象薬剤への追加に関する要望書
 - ⑦ 脳髄黄色腫症に対するケノデオキシコール酸製剤の全年齢（成人及び小児）での適応取得に関する要望書
 - ⑧ アクアポリン4抗体測定迅速化に関する要望書
ほか、スイッチOTC医薬品の候補となる成分の要望に対する見解提出、薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例（アセメタシン）、安定供給継続に関する要望書（10件）
- (3) 日本医師会疑義解釈委員会から審議依頼事項
 - ① 医薬品 7件
 - ② 医療機器・体外診断用医薬品 5件
- (4) 医薬品の供給停止手続きの承認 14件

(5) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の開発要望

- ① 未承認薬・適応外薬の要望 (PENBRAYA 成人版)
- ② 未承認薬・適応外薬の要望 (プロプラノロール塩酸塩)

9 小児—成人移行期医療について

小児—成人移行医療対策特別委員会は神経内科領域における委員会活動現状を臨床神経学に掲載した。また、小児から成人診療科への移行を語る会を WEB 開催し、小児診療科と成人診療との連携推進を図った。

10 遺伝医療に関する課題対策について

- 出生前、発症前の遺伝子診断、さらに重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-M) に関する意見書について検討するための遺伝学的検査に関する課題検討委員会において、
- (1) 「本邦における成人発症の遺伝性神経・筋疾患の発症前検査に関する手引き」を作成した。
 - (2) 日本産科婦人科学会より、PGT-M 症例審査に伴い意見書 A の作成依頼があった症例の審査結果が報告された。4 例中 3 例で、臨床倫理個別審査会の審査結果と神経学会の判断が一致していた。
 - (3) 「神経内科専門医を対象とした遺伝医療への関与に関する実態調査」を実施した。

11 国際協力事業

(1) アウトリーチ型海外教育事業

モンゴルの神経学会 INFO2024 に 4 名の医師を現地に派遣し、シンポジウムを行うとともに交流を深めた。

(2) AOCN2024 事業

AOCN2024 (19th Asian Oceanian Congress of Neurology) を、第 65 回神経学会学術大会の合同開催として開催した。

12 その他の事業

(1) 災害時医療支援の充実

- ① 神経難病リエゾンの更新および協議会を開催した。
- ② 2024 年 9 月 1 日 (日) の防災の日に、「～高めよう！防災リテラシー～」と題して初めての災害対策委員会ウェブセミナーを開催した。

(2) キャリア形成促進事業

会員のみならず一般の医療従事者も対象として以下の 2 回のウェビナーを実施した。

- ① 2025 年 1 月 11 日 (土) 開催 ライフイベントをどうのりきるか
- ② 2025 年 3 月 29 日 (土) 開催 学んで身につけよう「リーダーシップ」

(3) 臨床医会設置準備について

社員総会において臨床医会の設置について答申を行い、日本脳神経内科臨床医会設立の準備を行うことが認められた。

学術集会にてシンポジウム、教育コースを実施し脳神経内科のキャリアパス、他学会の臨床医部会の活動、脳神経内科開業の実際について議論した。また、2025 年 3 月には診療科としての脳神経内科を広く知ってもらい、コモン・ディゼイズに対する脳神経内科の貢献を広めるための市民公開講座を開催した。

(4) 学会運営のためのコンピュータシステムの整備について

本学会会員の会員認証と、会員の登録情報の確認や、学会情報の提供を目的とするシステムとして、スマートフォンを利用した「日本神経学会会員アプリ」を2024年4月から開始した。

(5) 地方会支部の課題調査検討について

地方会支部課題調査検討特別委員会が行った、今後の地方会への財政的支援のあり方について検討するためアンケート調査結果について、各支部の現状を議論した。

(6) セクションにおける自発的活動の実施について

事業計画が承認された5つのセクションについて、財政的な支援を行った。

(7) アーカイブズ事業

電子化した歴代学術集会抄録集を学会HP上に公開した。

13 一般社団法人としての運営

(1) 理事選挙の実施

2024年5月29日社員総会で理事を選出した。

(2) 代議員選挙の実施

2025年度の学術大会終了時に任期が満了となる代議員の選挙を行った。